



平成29年3月期
連結業績（経営成績と配当）

(億円、%)

■ 経営成績 ■	平成26年3月期	平成29年3月期	増減額	前期比
売上高	5,783	5,879	+96	101.7
営業利益	140	187	+47	133.9
経常利益	142	202	+60	142.5
純利益※	150	129	▲20	86.3

※親会社株主に帰属する当期純利益

■ 配当 ■

普通配当	40円	連結配当性向	20.9%
------	-----	--------	-------

Meiji Milk logo and number '3' in the bottom left corner.

【連結業績（経営成績と配当）】

売上高、営業利益、経常利益で増収増益となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、
 昨年度の工場跡地売却による特別利益が減少したことから、
 前期より20億円減少し、129億円となりました。

配当につきましては、
 当初30円の予想を据え置いてまいりましたが、
 中期経営計画の達成、
 ならびに今後の経営環境や利益見込みも踏まえ、
 1株当たり40円とさせていただきます。

この結果、連結配当性向は20.9%となりました。

平成29年3月期
連結業績（セグメント別内訳）

	乳製品		飲料・デザート類		餅類・種苗		その他	
	実績	前期比	実績	前期比	実績	前期比	実績	前期比
売上高	2,323	102.4	2,774	103.0	430	93.6	350	97.3
営業利益	117	123.9	46	201.2	12	145.9	11	83.1

主な施策

- 成長分野（チーズ・ヨーグルト）の事業拡大
- 戦略投資設備の最大活用
- 飲料・デザート類の事業構造改革

- ✓ 宣伝促進費の効率的な活用
- ✓ 積極的なプロモーションの展開
- ✓ 生産能力の増強
(小型ボトルタイプドリンクヨーグルトライン増設)
- ✓ プロダクトミックスの改善

4

【連結業績（セグメント別内訳）】

乳製品セグメントの売上高は、「6Pチーズ」「さけるチーズ」など主力商品の積極的なプロモーション活動の展開により、前期比102.4%と増収になりました。

営業利益は、主力商品の販売拡大に加えて、円高による原料輸入チーズの価格が低下したことなどから、前期比123.9%と増益になりました。

飲料・デザート類セグメントの売上高は、当社保有の乳酸菌「ガセリ菌SP株」商品群の販売を加速させたこと、また、新たな価値の提供として発売した「BOTTLATTE」シリーズも貢献し、前期比103.0%の増収となりました。

営業利益は、ヨーグルトの販売拡大によるプロダクトミックスの改善、および、原油安によりエネルギーコストが減少したことなどから前期比201.2%と大幅増益を達成しました。

なお、ヨーグルトは市場の伸長、特に機能性商品に対する需要に対応するため、2016年8月に海老名工場に小型ボトルタイプドリンクヨーグルトラインを増設しました。

平成29年3月期
連結営業利益増減要因の内訳

	平成28年3月期	平成29年3月期	増減額
	140億円	187億円	+47億円
増益要因 合計		+80	
減益要因 合計		▲33	
販売物量増加による利益増		+24	宣伝促進費の増加 ▲13
製品構成差		+20	減価償却費の増加 ▲10
資材単価差等		+20	その他 ▲10
エネルギー単価差		+9	
コストダウン		+7	

セグメント別の内訳は、決算短信の補足情報（46頁）をご参照ください。

5

【連結営業利益増減要因の内訳】

上記をご参照ください。

セグメント別の内訳は、決算短信の補足情報（46頁）をご参照ください。

平成29年3月期
連結貸借対照表

(億円)

	平成28年 3月期	平成29年 3月期	増減額		平成28年 3月期	平成29年 3月期	増減額
流動資産	1,419	1,386	▲32	流動負債	1,319	1,210	▲108
固定資産	2,022	2,028	+5	固定負債	798	749	▲48
総資産	3,415億円 (前期比▲26億円)			純資産	1,324	1,454	+130

増減要因

【流動資産】	【流動負債】
<ul style="list-style-type: none"> たな卸資産： ▲39億円 	<ul style="list-style-type: none"> 短期借入金： ▲52億円 未払法人税等： ▲35億円
【固定資産】	【固定負債】
<ul style="list-style-type: none"> 有形固定資産： ▲15億円 投資有価証券： +16億円 	<ul style="list-style-type: none"> 長期借入金： ▲60億円
	【純資産】
	<ul style="list-style-type: none"> 株主資本： +110億円

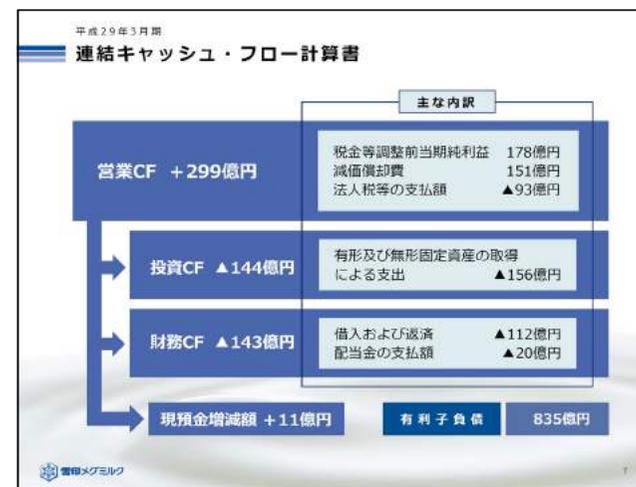
自己資本比率 41.9%

【連結貸借対照表】

流動資産は、たな卸資産の減少などにより減少、
固定資産は微増となり、
総資産額は前期末と比較し26億円減少し、3,415億円となりました。

負債は、借入金の返済や未払法人税等の減少により、
流動負債、固定負債、ともに減少しました。
純資産は、利益剰余金の積み上げなどにより、増加しました。

その結果、自己資本比率は前期末から
4.1ポイント改善して41.9%となりました。



【連結キャッシュ・フロー計算書】

営業CFは、299億円のキャッシュ・インとなりました。
これを、投資活動に144億円、財務活動に143億円、
振り向けた結果、現預金は前期末に比べ11億円増加しました。

有利子負債は、835億円、前期比106億円の減少となっております。



平成30年3月期（連結業績予想）
連結業績予想（経営成績と配当）

(億円、%)

■ 経営成績 ■	平成29年3月期	平成30年3月期	増減額	前期比
売上高	5,879	6,000	+120	102.1
営業利益	187	195	+7	104.0
経常利益	202	205	+2	101.1
純利益※	129	130	+0	100.1

※ 株式会社主に帰属する当期純利益

■ 配当 ■	普通配当	連結配当性向
	40円	20.9%

Meiji Milk logo

【連結業績予想（経営成績と配当）】

平成30年3月期の連結業績予想は、増収増益を見込んでいます。

配当は、1株当たり40円を予定しています。
 その結果、連結配当性向は、20.9%となる見込みです。

平成30年3月期（連結業績予想）

連結業績予想（セグメント別内訳）

(億円、%)

	乳製品		飲料・デザート類		飼料・種苗		その他	
	業績予想	前年比	業績予想	前年比	業績予想	前年比	業績予想	前年比
売上高	2,375	102.2	2,842	102.4	421	97.9	362	103.2
営業利益	112	95.6	61	131.9	10	79.7	12	108.9

乳製品セグメントのうち、ニュートリション事業

売上高	216	113.7
-----	-----	-------

10

【連結業績予想（セグメント別内訳）】

「乳製品」セグメントは、生乳価格、輸入チーズ価格の上昇などにより、減益を見込んでいます。

「飲料・デザート類」セグメントは、ヨーグルトなどの主力商品の売上拡大により、大幅な増益を見込んでいます。

「飼料・種苗」セグメントは、研究開発投資や体制強化に伴う負担増により、減益を見込んでいます。

なお、中期経営計画で説明した機能性食品や粉乳などの「ニュートリション事業分野」は、乳製品セグメントに含まれています。

平成30年3月期（連結業績予想）

連結営業利益増減要因の内訳

平成29年3月期	平成30年3月期	増減額
187億円	195億円	+7億円

増益要因 合計	増減額	減益要因 合計	増減額
増益要因 合計	+70	減益要因 合計	▲63
販売物量増加による利益増	+38	宣伝促進費の増加	▲23
製品構成差	+24	資材単価差等	▲16
販売単価差	+5	乳価差	▲8
コストダウン	+3	減価償却費の増加	▲5
		エネルギー単価差	▲4
		その他	▲7

セグメント別の内訳は、決算短信の補足情報（49頁）をご参照ください。

11

【（連結業績予想）営業利益増減要因の内訳】

先ほど説明しましたとおり、生乳価格や輸入チーズ価格の上昇などによるコストアップが見込まれます。

これに対し、積極的なプロモーション活動の展開など、宣伝促進費を効果的に投入し、機能性ヨーグルトなどの高付加価値商品の売上拡大などに努め、増益となるように取り組んでいきます。

セグメント別の内訳は、決算短信の補足情報（49頁）をご参照ください。



重点取組項目①

1. チーズシェア拡大による収益基盤の確立

- ✓ 6Pチーズのプロモーション展開
- ✓ 雪印北海道100ブランドの強化

2. 海外展開の推進

- ✓ チーズの市場拡大（インドネシア）と周辺国への輸出展開
- ✓ 国内からの輸出推進

2014年を100とした場合の販売物量の推移（インドネシア）

年次	販売物量の推移
2014年	100
2015年	約150
2016年	約250
2017年	約400

雪印メグミルク

【乳製品事業分野の重点取組項目】

国内では、「6 P チーズ」のプロモーション展開や、今年で10年目の「雪印北海道100」ブランドの強化に努め、チーズシェア拡大による収益基盤の確立に取り組んでいきます。

海外では、インドネシアにおける「プロセスチーズ」の販売物量が毎年、順調に増加しています。

2017年度は、インドネシア国内市場での拡大に加え、シンガポールを始めとする周辺国への輸出を展開していきます。

また、さけるチーズや業務用商品など当社の強みである北海道産商品、差別化商品を輸出するなど、海外展開の推進に取り組んでいきます。

重点取組項目②

1. ヨーグルト事業の取組強化

- ✓ 「ガセリ菌SP株」商品群の拡大
- ✓ 集中的資源投資の推進

海老名工場の生産設備増強



2. プロダクトミックスの最適化

- ✓ 「BOTTLATTE」、基幹ブランドのプロモーションの展開強化



雪印メグミルク 14

【市乳事業分野の重点取組項目】

引き続き、内臓脂肪を減らす機能の「ガセリ菌SP株」商品群の拡大に取り組んでいきます。

海老名工場におきまして、2017年5月より、「小型ボトルタイプドリンクヨーグルト」の生産能力を現行の1.2倍といたします。

また、このほかにも、「プレーンタイプ」や「ハードタイプ」の生産能力の引き上げなど、ヨーグルトへの集中的な資源投資を行い、ヨーグルト事業の強化に取り組んでいきます。

加えて、「BOTTLATTE」や今年発売55年目を迎えた「雪印コーヒー」を始めとする基幹ブランドのプロモーション展開を強化し、プロダクトミックスの最適化を図っていきます。

重点取組項目③

1. マーケティング投資による事業規模拡大

- ✓ 「MBP®」を中心とした強化



2. 粉乳カテゴリーにおける事業構造の改革

- ✓ アジア市場における成人用・妊産婦用粉乳の拡大



雪印メグミルク 15

【ニュートリション事業分野の重点取組項目】

機能性食品カテゴリーでは、「MBP®」関連商品を中心に、認知率向上に向けたマーケティング投資による事業規模拡大に取り組んでいきます。

粉乳カテゴリーでは、アジア市場において、これまでの育児用粉乳に加え、成人および妊産婦向け粉乳の拡大に取り組んでいきます。

重点取組項目④

1. 種苗事業の売上拡大

- ✓ 牧草・緑肥作物等の販売拡大
- ✓ 種子生産・調達体制の強化



2. 飼料事業の利益拡大

- ✓ 総合提案型営業の推進
- ✓ 効率的な調達・生産・物流体制の構築

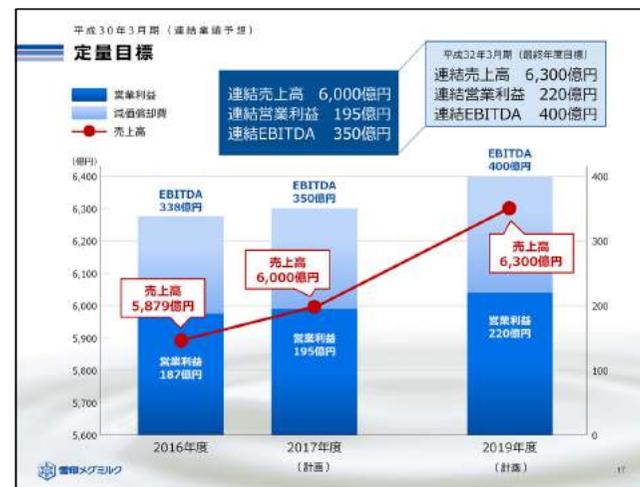


18

【飼料・種苗事業分野の重点取組項目】

牧草・緑肥作物などの販売拡大や種子の生産、調達体制の強化による種苗事業の売上拡大と、

総合提案型営業の推進、効率的な調達、生産、物流体制の構築による飼料事業の利益拡大に取り組んでいきます。



【定量目標】

2017年度は、「グループ中期経営計画2019」のスタートの年度となります。

これまで説明しました取組みを実行し、最終年度の目標達成に向け、取り組んでいきます。

未来は、ミルクの中にある。



本資料に記載されている業績予想などの将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が判断した見通しであり、その達成を当社として約束する意図のものではありません。
また、実際の業績等は、業況の変化等により、本資料の予想数値と異なる場合があります。

